

Ⅲ 活動記録

1 展覧会

- ・ 出品リストについては、他所蔵家作品のみ詳細を掲載した。
- ・ 画像は各展覧会のリーフレットを使用した。
- ・ 美術講演会講師の所属は開催当時のもの。

平成 19 年度

特別展 「清方の美人画」

清方は、人物の描写を得意とし、美人画の名作を多く遺している。美人画では、女性
の美しさを強調するだけにとどまらず、様々なしぐさ、装身具や衣装の模様など、画面
の隅々に至るまで心配りをしている。

本展覧会では、福富太郎コレクションをはじめ、美しい女性の姿を取上げた作品を中
心に紹介した。

会期 平成 19 年 4 月 26 日(木)～平成 19 年 5 月 30 日(水) (開館日数:31 日)

総入館者数 4,990 人(一日平均:161 人)

関連事業

美術講演会「清方の美人画の水上《一葉女史の墓》とその後の作品をめぐって」

【講師】 柏木智雄氏(横浜美術館次席学芸員)

【日時】 平成 19 年 5 月 14 日(月)13:30～15:30

関連記事

「鑑木清方記念美術館 特別展「清方の美人画」(4 月 1 日、15 日、5 月 1 日 広報かまくら)

「5 月の展覧会より 道成寺(山づくし)」(4 月 25 日 博物館研究)

「美術館・文学館めぐり 鑑木清方記念美術館 清方の美人画」(5 月 2 日 鎌倉朝日)

「女性の美つややかに 鎌倉 鑑木清方の特別展」(5 月 2 日 神奈川新聞)

「鑑木清方記念美術館 特別展「清方の美人画」(5 月 20 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「ぎゅらりー探訪 優美な女性 流麗な線で」(5 月 25 日 読売新聞)



出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
道成寺(山づくし) 鶯娘	大正 9 年(1920)	絹本着色・二曲一雙	(各) 155.6×169.6	福富太郎コレクション
化粧(婦人像)	昭和 8 年(1933)	絹本着色・額	54.0×43.8	同上
夜の若葉	昭和 14 年(1939)頃	絹本着色・軸	126.0×36.0	同上

【所蔵品】

「浅みどり」「ためさるゝ日(右幅)」「笠の曲(娘道成寺)」「襟おしろい」「舞妓」「山百合」「雨華庵風流」「芍薬」「桜乙女」

「歌妓三態(『鑑木清方繪入本 御濠端』)」

『清方美人画譜』より「幕間(下絵、木版刷)」「五月雨(原色版)」「午後の海(下絵、原色版)」「春雨の寮(下絵、木版刷)」「白壁(下絵、原色版)」「青き星(下絵、木版刷)」「初雪(原色版)」「湖のほとり(下絵、原色版)」「濱町河岸の秋(下絵、木版刷)」「島田くづし(原色版)」

下絵 「初雁の御歌(小下絵)」「春宵怨」「三菱銀行の絵葉書」「江戸風俗」「風鈴」「麗人影像(二)」「麗人影像(三)」「五月雨」「紫陽花の谷」

スケッチ 「桔梗 蜻蛉」「花菖蒲」「紅花」

口絵 『文藝界』(「夕涼み」「浴後」)、『講談雑誌』(「菖蒲湯(清方畫譜の五)」「盆提灯(清方畫譜の七)」「戀の湊(清方畫譜の八)」、『婦人世界』(「新夫人」「星多き夜」「散るいてふ」「靈鐘の鞠枝」)、『少女界』(「さみだれ」)

「菊池幽芳著『賣花娘』」「菊池幽芳著『月魄』藤乃の巻」「ほづき」「緑蔭」「藤娘」

特別展 「市井の暮らしと女性たち」

清方は、身近にあった東京下町の風俗や、その暮らしを舞台にした樋口一葉の『たけくらべ』などを、好んで取り上げている。生涯、市井の暮らしに温かな眼差しを傾け、親しんでいた風景や人情が失われていくのを見つめながら、その穏やかな光景を写し留めた。現在では見ることの出来なくなった品々や風景、生活習慣、そこからかもし出される情趣とともに描かれた女性の作品を紹介した。

会期 平成 19 年 6 月 2 日(土)～平成 19 年 7 月 8 日(日) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,400 人(一日平均:109 人)

関連記事

「竈木清方記念美術館 特別展「市井の暮らしと女性たち」 (5 月 20 日、6 月 20 日
藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「竈木清方記念美術館 特別展「市井の暮らしと女性たち」 (6 月 1 日 広報かまくら)

「鎌倉市竈木清方記念美術館 特別展「市井の暮らしと女性たち」 (6 月 1 日 江ノ電沿線ガイド)

「展覧会のしおり 竈木清方記念美術館 市井の暮らしと女性たち」 (6 月 15 日 趣味の水墨画)

「神奈川マリオン 特別展「市井の暮らしと女性たち」 (6 月 27 日 朝日新聞)



出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
たけくらべの美登利	昭和 15 年(1940)	絹本着色・額	58.0×72.8	京都国立近代美術館蔵
砧	昭和 19 年(1944)頃	絹本着色・軸	49.3×57.6	同上
糸三鬚の女	昭和 42 年(1967)	紙本着色・額	52.5×58.0	古川美術館蔵
夏の日盛り	昭和 21 年(1946)	絹本着色・額	47.0×56.0	同上
水辺美人図	制作年不詳	絹本着色・額	42.0×51.7	同上
鷺娘	昭和 3 年(1928)	絹本着色・軸	130.0×42.0	平野美術館蔵

【所蔵品】

「ほづき」「孤児院」「ゆあみ」「水汲」「虫の音」「朝夕安居 昼」「朝夕安居 夕」「ゆかた」「柳の下に涼む娘」
『東京 築地川』(『画集 東京と大阪』)より 「目録」「明石町」「伊達家水門」「組立燈籠」「亀井ばし」「鉄砲洲」「船住居」「佃島」「癩化ける」「築地橋」「氷店」「紫陽花の垣」「作者」

下絵 「たけくらべ(霜の朝)」「たけくらべ(つり忍)」

『東京 築地川』下絵 「目録草稿(横)」「船住居」「氷店」

スケッチ 「鉄砲百合」「鶏頭」「睡蓮」「紫陽花」「凌霄花」「朝顔」「紫陽花(素描帳)」「山百合」

口絵 「樋口一葉著『たけくらべ』現代名作集」「樋口一葉著『たけくらべ』現代名作集口絵原画」「小杉天外著『魔風戀風』中編」「菊池幽芳著『百合子』後編」「小杉天外著『落花帖』後編」「茶屋の二階(婦人風俗十二題 その七 明治中世) (『婦女界』)」「梅雨五題(笹團子) (『女性』)」

『苦楽』表紙 「『たけくらべ』の美登利」

『少女界』表紙 「葡萄」「海水浴」「赤蜻蛉」「花園」「コスモス」

『婦人之友』表紙(昭和 13 年 6 月号、8 月号、9 月号)

『婦人公論』挿絵(「いけす」「秋深し」「秋暉」)

収蔵品展 『東北新聞』から「霽れゆく村雨」まで

【第一期】

清方は『東北新聞』に明治30年から36年まで、約1,800点もの連載小説の挿絵を描き、挿絵画家として有名になった。また、泉鏡花の小説に描いた口絵が成功を収め、その地位を確立してゆく。

挿絵画家から日本画家へと転身する明治から大正時代の作品を2期に分けて紹介、第一期は明治期の作品や挿絵を中心に展示した。

会期 平成19年7月12日(木)～平成19年8月26日(日) (開館日数:40日)
総入館者数 2,235人(一日平均:55人)



関連事業

「夏休み子ども参加プログラム」

【テーマ】うちわに絵を描こう

【開催日時】平成19年8月10日(金)・16日(木)・17日(金)9:30～10:30

「夏休み親子鑑賞」

【開催期間】平成19年7月21日(土)～8月31日(金)

関連記事

「鎌倉市鎌木清方記念美術館 収蔵品展『東北新聞』から「霽れゆく村雨」まで」(6月1日 江ノ電沿線ガイド)

「展覧会のしおり 鎌木清方記念美術館 『東北新聞』から「霽れゆく村雨」まで」(6月15日 趣味の水墨画)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展『東北新聞』から「霽れゆく村雨」まで【第一期】」(6月20日、7月20日、8月20日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「鎌倉市鎌木清方記念美術館 「東北新聞」から「霽れゆく村雨」まで」(三浦半島だより)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展「東北新聞」から「霽れゆく村雨」まで・第1期」(7月1日 広報かまくら)

「清方の挿絵 収蔵品展 「東北新聞」から「霽れゆく村雨」まで」(7月28日 神奈川新聞)

「鎌倉市鎌木清方記念美術館 『東北新聞』から「霽れゆく村雨」まで」(8月1日 鎌倉萌)

「美術館・文学館めぐり 東北新聞～霽れゆく村雨」(8月2日 鎌倉朝日)

「Fridayかながわ 収蔵品展『東北新聞』から『霽れゆく村雨』まで」(8月3日 読売新聞)

出品作品

「小楠公弁の内侍を救う」「栗をむく娘」「金色夜叉」「雑司ヶ谷会式」「新大橋之景」「夏の思い出 第5～12図」「砂浜少女」「大蘇芳年」「あじさい」

下絵 「霽れゆく村雨(小下絵)」「三遊亭圓朝像」「先師の面影」

スケッチ 「朝顔」「岩菲」

口絵 「泉鏡花著『三枚續』」「村井弦齋著『日の出島 朝日の巻』下」「泉鏡花著『風流線』」「泉鏡花著『無憂樹』」「大倉桃郎著『不知火』」「泉鏡花著『式部小路』」

『女性』口絵 「梅雨五題(堀切)」

『文藝倶楽部』口絵 「汐干狩」「白魚」

『新小説』口絵 「前田曙山著『銅臭(新緑)』」「廣津柳浪著『冬の夜話』」「小栗風葉著『沼の女』」「泉鏡花著『舞の袖』」「小栗風葉著『瀬戸がよひ』」「泉鏡花著『紅雪録』」「泉鏡花著『瓔珞品』」「泉鏡花著『胡蝶之曲』」

コマ絵 「當世女模様 女優」「新柳二十四時 午後六時(コマ絵、校正摺)」「新柳二十四時 午後九時(コマ絵、校正摺)」

挿絵 「泉鏡花著『二世の契』」

『文藝倶楽部』挿絵 「泉鏡花著『深沙大王』校正摺(2点)」「兒島晴濱著『道途』挿絵、校正摺、下絵」「寶井馬琴講演『關ヶ原七本槍』挿絵、校正摺」「英蟬花著『辰巳氣質』挿絵、校正摺」「泉鏡花著『靈象』」「放牛舎桃林講演『勝田新左衛門』挿絵、校正摺」「泉鏡花著『頬白』下絵(2点)」

「遅塚麗水著『大和武士』水野年方口絵」

「一畫一文 堀切(『鎌木清方文集五 名所古跡』)」「堀切小高園(『鎌木清方文集六 時粧風俗』)」

「団扇 清方意匠 「岩菲」「朝顔」「美人・朝顔」「美人・露草」「美人・のれん」「美人・日傘」

収蔵品展 『東北新聞』から「霽れゆく村雨」まで

【第二期】

明治30年、『東北新聞』に掲載されたのを機に、18歳の清方は挿絵画家として人気を得た。

次第に小説の枠に囚われることに不満を感じ、自由に制作できる日本画へ活動の軸を移してゆく。「霽れゆく村雨」を、大正4年文展に出品、最高賞を受賞し、出世作と呼ばれている。

挿絵画家から日本画家へと転身する明治から大正時代の作品を2期に分けて紹介、第二期は、日本画家として歩みはじめた大正期の作品を中心に展示した。

会期 平成19年8月30日(木)～平成19年10月17日(水)

(開館日数:42日)

総入館者数 2,851人(一日平均:67人)



関連事業

「夏休み親子鑑賞」

【開催期間】平成19年7月21日(土)～8月31日(金)

関連記事

「鎌倉市鐮木清方記念美術館 「東北新聞」から「霽れゆく村雨」まで」（三浦半島だより）

「展覧会のしおり 鐮木清方記念美術館『東北新聞』から「霽れゆく村雨」まで」（6月15日 趣味の水墨画）

「鐮木清方記念美術館 収蔵品展『東北新聞』から「霽れゆく村雨」まで【第二期】」

（6月20日、7月20日、8月20日、9月20日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない）

「美術館・文学館めぐり 東北新聞～霽れゆく村雨」（8月2日 鎌倉朝日）

「鐮木清方記念美術館 収蔵品展「東北新聞」から「霽れゆく村雨」まで・第2期」（8月15日 広報かまくら）

「マリオン 『東北新聞』から「霽れゆく村雨」まで」（8月29日 朝日新聞）

「ゆめぼつけ 美術・博物館ガイド 鐮木清方記念美術館 収蔵品展『東北新聞』から「霽れゆく村雨」まで—第二期」（8月30日 東京新聞）

「江ノ電沿線美術館めぐり 鎌倉市鐮木清方記念美術館」（9月1日 江ノ電沿線ガイド）

「鐮木清方記念美術館 一収蔵品展—『東北新聞』から「霽れゆく村雨」まで」第二期（9月21日 ぼど）

「鎌倉市鐮木清方記念美術館 《収蔵品展》『東北新聞』から「霽れゆく村雨」まで」（8月1日、10月1日 鎌倉萌）

出品作品

「秋宵」「太夫」「有卦自祝之絵」「清子四歳像」「梅蘭芳 天女散華」「夕立雲」「風景」(2点)

「夏の生活(絵日記)」「君ヶ寄漫筆」「游心庵漫筆」「金沢絵日記」「絵日記」(2点)

下絵 「霽れゆく村雨」「金澤游心庵」「筆捨松」

スケッチ 「柘榴」(3点)「龍膽」(2点)「おもだか」「茴香」「菊」「武州金澤の蝸あさり」「游心庵 むくげ」「へちま」(2点)
「蓮」(2点)「萩」「残柿」「葡萄」「とうもろこし」

口絵 「渡辺霞亭著『勝鬨』(2点)」「かりがね」「思ひ出」「とんぼつり」「秋の山」「菊」「秋ばれ」

「霽れゆく村雨 小下絵(部分) (『鐮木清方文集一 制作餘談』)」

「金澤八景 (『鐮木清方文集五 名所古跡』)」

日展百年記念 特別展 「鏗木清方と官展」

明治 40 年、第一回文部省美術展覧会(文展)が開催された。清方は、この展覧会のために「曲亭馬琴」を制作し、応募したが、落選。しかしその後は入選と受賞を重ね、大正 4 年(1915)には出世作「霽れゆく村雨」が最高賞を獲得し、日本画家としてますます注目を浴びるようになった。清方は、数々の代表作を官展に発表する一方で、審査員も務め、後進の育成にも心を砕いた。

文展は後に、帝展、改組帝展、新文展と、名称組織を変え、昭和 33 年(1958)には、社団法人「日展」となり、平成 19 年に百周年を迎えた。これを記念し、官展出品作を中心に展示した。

会期 平成 19 年 10 月 20 日(土)～平成 19 年 11 月 25 日(日) (開館日数:31 日)

総入館者数 4,040 人(一日平均:130 人)



関連事業

「第二回鎌倉芸術祭」参加

美術講演会「鏗木清方と官展」

【講師】河野元昭氏(東京大学名誉教授、秋田県立美術館長)

【日時】平成 19 年 11 月 12 日(月)13:30～15:00

関連記事

「江ノ電沿線美術館めぐり 鎌倉市鏗木清方記念美術館」(9 月 1 日 江ノ電沿線ガイド)

「鎌倉市鏗木清方記念美術館 日展百年記念特別展『鏗木清方と官展』」(9 月 三浦半島だより)

「個人美術館&記念館で芸術の秋を堪能する」(9 月 27 日 助六)

「鎌倉市鏗木清方記念美術館 特別展「鏗木清方と官展」」(10 月 1 日 鎌倉萌)

「鏗木清方記念美術館 日展 100 年記念特別展「鏗木清方と官展」」(10 月 15 日 広報かまくら)

「鏗木清方記念美術館 日展百年記念特別展「鏗木清方と官展」」(10 月 20 日、11 月 20 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「浮世絵関連展覧会案内 鎌倉市鏗木清方記念美術館 鏗木清方と官展」(10 月 24 日 国際浮世絵学会会報)

「鎌倉芸術祭 11 月 鏗木清方と官展」(11 月 2 日 鎌倉朝日)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
露の干ぬ間	大正 5 年(1916)	絹本着色・六曲一雙	(各)170.5×365.3	個人蔵
墨水三勝(葉さくら 月の眉 真崎の雪)	昭和 11 年(1936)	絹本着色・軸(三幅対)	(各)99.7×24.5	個人蔵
瀧野川観楓	昭和 5 年(1930)	絹本着色・軸	53.0×71.0	個人蔵

【所蔵品】

「教誨」「曲亭馬琴」「朝涼」「朝夕安居 朝」「先師の面影」

「霽れゆく村雨(小下絵)(六曲一雙)」「黒髪(小下絵)」「初雁の御歌(小下絵)」「鯛(下絵)」

『東京 築地川』(『画集 東京と大阪』)より 「明石町」「鉄砲洲」「船住居」「佃島」「築地橋」「作者」

スケッチ 「曲亭馬琴」「鏡」「女歌舞伎(関連スケッチ)」(2 点)「墨田河舟遊」「朝涼」「築地明石町」(2 点)
「妓女像」(4 点)「ためさるゝ日 踏絵」(2 点)

『文藝倶楽部』口絵 「あさ露」「ひともし頃」「こすもす」「八幡鐘」

「朝夕安居(『鏗木清方文集 一 制作餘談』)」「築地明石町(肖像写真)」「築地明石町(切手)」「一葉(切手)」

参考図版 「女歌舞伎(『文部省第四回美術展覧会(傑作画受賞品日本画の部)』)」「鏡(『文部省第三回美術展覧会受賞品集』)」「墨田河舟遊(『阿々土』4号)」「霽れゆく村雨(『文部省第 9 回美術展覧会受賞品集日本画の部』)」「ためさるゝ日(『毎日新聞創刊百年記念鏗木清方展』)」「築地明石町(『毎日新聞創刊百年記念鏗木清方展』)」「妓女像(『阿々土』3号)」

収蔵品展 「清方の作品と下絵」

清方は克明な写生に基づき、作品と同じ大きさの下絵を描き、それに幾度も修正を加えている。特に顔の部分などは、紙を張り描き直しており、作品ではわからない制作過程の跡をみることができる。

スケッチ、下絵とともに作品を展示した。

会期 平成 19 年 11 月 29 日(木)～平成 19 年 12 月 20 日(木)

(開館日数:19 日)

総入館者数 1,341 人(一日平均:70 人)



関連記事

「鑑木清方記念美術館 収蔵品展「清方の作品と下絵」

(10 月 20 日、11 月 20 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「浮世絵関連展覧会案内 鎌倉市鑑木清方記念美術館 清方の作品と下絵」

(10 月 24 日 国際浮世絵学会会報)

「鑑木清方記念美術館 収蔵品展「清方の作品と下絵」

(12 月 1 日 広報かまくら)

「美術館・文学館めぐり 鑑木清方記念美術館 清方の作品と下絵」

(12 月 2 日 鎌倉朝日)

出品作品

「慶喜恭順」「女役者衆八」「ふたつあちさみ」「崔承喜 二」「築地明石町の船・詞」

下絵 「慶喜恭順」「築地明石町」「藤懸静也博士寿像」「橋田邦彦博士像」「伽羅」「女役者衆八」

「三浦謹之助博士像」「紅雨荘(右隻)」「崔承喜(全身)」

「築地川みちしほ(『今様絵詞の会』)」「下町に灯のともる頃(『今様絵詞の会』)

「お夏清十郎物語 第 4 図」「お夏清十郎物語 第 6 図」

「朝顔日記」下絵 「宇治の螢」「朝顔の歌」「明石船別れ」「島田の宿」「目なし鳥」「めぐりあひ」「露の干ぬ間」

「大井川」「ひれふる山」「かへり咲」

「築地川界限」小下絵 「軽子橋」「佃の渡し」「明石町海岸」「合引橋」「築地河岸」

スケッチ 「慶喜恭順」「築地明石町」(2 点)「築地明石町の船・詞」「藤懸静也博士寿像」(3 点)

「橋田邦彦博士像」(2 点)「三浦謹之助博士像」「紅雨荘」(3 点)

「崔承喜(顔)」「崔承喜(全身)」(2 点)

「鑑木清方著『築地川』趣味版(表紙、裏表紙)」「鑑木清方著『築地川』普及版(表紙、目次カット)」

「鑑木清方著『褪春記』表紙、箱」

「鑑木清方著『東なまり』『道中硯』口絵」

「藤懸静也著『浮世繪』表紙」

「宇治の螢(『苦楽』表紙)(下絵)」

「築地明石町(肖像写真)」「清方の文展出品制作「紅雨荘」(『新小説』図版)」

収蔵品展 「正月の風情と羽子板展」

江戸時代の正月行事として、長崎では、花魁による踏み絵が行われていた。その姿を描いた「ためさるゝ日」のほか、清方が書き初めとして描いた「宝珠」、明治 30 年頃の庶民生活を描いた「明治風俗十二月」を、押絵師・永井周山が意匠化した押絵羽子板(十二面)など、正月の風情が感じられる作品を紹介した。

会期 平成 20 年 1 月 4 日(金)～平成 20 年 2 月 11 日(月・祝)

(開館日数:35 日)

総入館者数 2,749 人(一日平均:78 人)

関連記事

「鎌倉市鐮木清方記念美術館 正月の風情と羽子板展」

(博物館研究)

「鐮木清方記念美術館 収蔵品展「正月の風情と羽子板展」

(11 月 20 日、12 月 20 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「鎌倉市鐮木清方記念美術館 収蔵品展『正月の風情と羽子板展』」(12 月 三浦半島だより)

「鐮木清方記念美術館 正月の風情と羽子板展」(1 月 1 日 広報かまくら)

「情報バザール 正月の風情と羽子板展」(1 月 5 日 神奈川新聞)

「インフォメーション 鐮木清方記念美術館 正月の風情と羽子板展」(1 月 15 日 月刊書道界)

「浮世絵関連展覧会案内 鎌倉市鐮木清方記念美術館 正月の風情と羽子板展」

(1 月 24 日 国際浮世絵学会会報)

「Friday かながわ 正月の風情と羽子板展」(1 月 25 日 読売新聞)

「鐮木清方記念美術館 〈収蔵品展〉正月の風情と羽子板展」(1 月 1 日、2 月 1 日 鎌倉萌)

出品作品

「ためさるゝ日(右幅)」「雪空」「松のうち」「喜寿」「白梅」(2 点)「牡丹 一」「宝珠」「註文帖(全 13 図)」

「鉢植の梅松(試筆)」

下絵 「燕」

『苦楽』表紙絵下絵 「紅梅屋敷」「春を待つ」「松ノ内」

スケッチ 「ためさるゝ日 踏絵」「春の七草」「水仙」「沈丁花」「花簪」「菫の臺」

口絵 「都大路(『文藝界』)」「紅梅(『女學世界』)」「初東風(『大正婦人』)」「渡邊霞亭著『渦巻』續編」

『苦楽』表紙 「紅梅屋敷」「春を待つ」「松ノ内」

押絵羽子板 「明治風俗十二月」「春の夜のうらみ」「ためさるゝ日」

「梅(ふくさ)」

「扇面に竹と梅(風呂敷)」「凧と梅(風呂敷)」「張子の虎とキンカン(風呂敷)」

「ためさるゝ日(『毎日新聞創刊百年記念鐮木清方展』)(参考図版)

「宝珠(かきぞめ)(『婦人之友』)」

「宝船 宝珠(『鐮木清方文集 四 春夏秋冬』)」

「清方意匠 年賀状(『鐮木清方文集 四 春夏秋冬』)」

「明治風俗十二月(かるた)(鐮木清方著『菫の芽』)」

「鐮木清方氏筆 絹繪羽子板(山田徳兵衛著『羽子板』)」



収蔵品展 「女性が惹かれた美人たち」

【第一期】「清方描く 一葉、鏡花作品の女性を中心に」

清方は、樋口一葉や泉鏡花の小説に登場する女性に関心を持っていた。一葉作『たけくらべ』の美登利をはじめ、鏡花が一葉(本名なつ)をイメージして書いたと言われる『三枚續』のお夏などを描いている。また、作品のみならず、作者自身に対して深い敬愛の念を抱き、後にその姿も手掛けている。

泉鏡花の随筆から着想を得た「一葉女史の墓」など、一葉や鏡花に関わる本画や口絵を中心に展示した。

会期 平成20年2月17日(日)～平成20年3月23日(日)

(開館日数:31日)

総入館者数 2,350人(一日平均:75人)



関連記事

「浮世絵関連展覧会案内 鎌倉市鎌木清方記念美術館 女性が惹かれた美人たち」

(1月24日 国際浮世絵学会会報)

「鎌木清方記念美術館 〈収蔵品展〉女性が惹かれた美人たち」

(1月1日、2月1日 鎌倉萌)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展「女性が惹かれた美人たち～第一期 清方描く 一葉、鏡花作品の女性を中心に」」

(2月15日 広報かまくら)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展「女性が惹かれた美人たち」第一期 清方描く 一葉、鏡花作品の女性を中心に」

(2月20日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「3月の美術館・文学館めぐり 鎌木清方記念美術館 女性が惹かれた美人たち」

(3月1日 鎌倉朝日)

「神奈川マリオン 収蔵品展「女性が惹かれた美人たち」(3月12日 朝日新聞)

出品作品

「一葉女史の墓」「深沙大王」「しだれ桜」「にごりえ(全15図・序文)」

下絵 「のれん(夏姿)」「たけくらべの美登利」「小説家と挿絵画家」「たけくらべ(霜の朝)」「たけくらべ(つり忍)」

「明治の女」「客間」

スケッチ 「水仙」「樋口家の墓」

口絵 「泉鏡花著『三枚續』」「泉鏡花著『起誓文』(『新小説』)」「泉鏡花著『風流線』口絵差上げ」「泉鏡花著『瓔珞品』

(『新小説』)」「泉鏡花著『神鑿』」「泉鏡花著『戀女房』」「泉鏡花著『薄紅梅』」「泉鏡花著『薄紅梅』口絵下絵」

「泉鏡花著『深沙大王』(『文藝俱樂部』)校正摺2点」「泉鏡花著『高野聖(現代名作集)』口絵原画、口絵下絵」

「樋口一葉著『たけくらべ(現代名作集)』色刷口絵、口絵原画、口絵下絵」

「初東風(『大正婦人』)」「新夫人(『婦人世界』)」「星多き夜(『婦人世界』)」「散るいてふ(『婦人世界』)」

「靈鐘の鞠枝(『婦人世界』)」

「泉鏡花著『薄紅梅』(『東京日日新聞』)挿絵下絵」

「樋口一葉著『たけくらべ』の美登利(『苦樂』)」

「泉鏡花著『高野聖』(『苦樂』)表紙下絵」「泉鏡花著『高野聖』(今様絵詞の会)下絵」

『婦人之友』表紙(9点)

「註文帖畫譜」

収蔵品展 「女性が惹かれた美人たち」

【第二期】「清方の優美なる筆遣い」

清方は、文芸誌をはじめ、婦人雑誌の口絵や表紙などを手掛けていた。優美な筆遣いは、口絵においてもその魅力を失うことなく、また、季節感を取り入れた女性の姿、流行の髪型や装身具、背景に至るまで繊細な心配りがなされている。

本展覧会では、本画とともに、雑誌の口絵や表紙絵など、女性たちが描かれた作品を展示した。

会期 平成 20 年 3 月 27 日(木)～平成 20 年 4 月 20 日(日)

(開館日数:22 日)

総入館者数 2,174 人(一日平均:98 人)

関連事業

「春休み子ども参加プログラム」

【テーマ】新学年の夢・希望・決意を絵にして色紙に描こう

【開催期間】平成 20 年 4 月 2 日(水)・3 日(木)

「春休み親子鑑賞」

【開催日時】平成 20 年 3 月 27 日(木)～4 月 6 日(日)

関連記事

「鑑木清方記念美術館 〈収蔵品展〉女性が惹かれた美人たち」(2 月 1 日 鎌倉萌)

「鎌倉市鑑木清方記念美術館 収蔵品展 女性が惹かれた美人たち 第二期 清方の優美なる筆遣い」

(3 月 三浦半島だより)

「3月の美術館・文学館めぐり 鑑木清方記念美術館 女性が惹かれた美人たち」(3月1日 鎌倉朝日)

出品作品

「早春」「舞妓」「夏の思い出(部分)」「有卦自祝之絵」「喜寿」「ふたつあちさみ」「芍薬」「牡丹 二」「桜乙女」「春や昔」

下絵 「春宵怨」「夏の女客」

『苦楽』表紙下絵(「彌生」「舞妓」「花菖蒲」「湯の宿」「神田祭」「菖蒲湯」「宇治の螢」「箱庭」「芙蓉」「ふた昔」

「高尾ざんげ」)

スケッチ 「舞妓(『苦楽』)」

口絵 「花吹雪(『文藝倶楽部』)」「小栗風葉著『麗子夫人』前篇」「さみだれ(『少女界』)」「花の蔭(『少女界』)」「小杉

天外著『落花帖』後編」「渡邊霞亭著『勝鬨』中編」「秋(『婦人くらぶ』)」「春霞巾をつけた女(『婦人世界』)」「

「茶屋の二階(婦人風俗十二題その七 明治中世)(『婦女界』)」「尾崎紅葉著『金色夜叉』」「梅雨五題(堀切)

(『女性』)」

『講談雑誌』口絵 「光のどけき(清方畫譜の四)」「浮いて鴉の(清方畫譜の三)」「菖蒲湯(清方畫譜の五)」「盆提灯(清

方畫譜の七)」「戀の湊(清方畫譜の八)」

『苦楽』表紙 「花野」「道成寺」「牡丹」「春雨」「堀川波の鼓」「夏目漱石著「草枕」

『少女界』表紙 「春の野邊」「花園」

「柱姿(『婦人公論』コマ絵)」「尾崎紅葉著「名作繪物語 金色夜叉」(『苦楽』挿絵)」

「泉鏡花著「名作繪物語 日本橋」(『苦楽』挿絵)」

「東京十二景 築地川(『婦人之友』扉カット)」

「尾崎紅葉著『金色夜叉』」「鳴澤宮の像(『婦人倶楽部』附録)」

「鑑木清方著「美人畫を描く時の苦心」(『婦人世界』)」

「鑑木清方著「美のありか」(『婦人画報』)」

